

序

「愛国心の欠如」が叫ばれるに至つて年久しい。敗戦によつて日本国民は、わが国の悪しきもの、劣れるもの、醜きものを捨てると同時にその優れたるもの、美しきものまでも捨ててしまつた。そして徒らに外なるものに憧れ追従これ事とするに至り、劣等感のとりことなつた憾みがある。「国敗れて山河あり」不幸戦に敗れたりとは言え、わが国には昔ながらの良風美俗、長所美点の有するもの少しとしない。それらは国民の誇りとして永く之を持ち続け子孫に伝えたいと思う。

「愛郷心は愛国心につながる」と言う。われわれは先ず次代を背負う小国民たちに、その郷土の実態を知らしめたいと思う。「名もなき雑草」と捨てゝ顧みられない路傍の一茎の雑草も、その名を知りその実態を知るとき、そこに造化の妙を見出し親しみと愛着を感じるものである。この意味に於て、生徒たちに郷土の実態を知らしめたい。われわれ教師としては郷土の実態に即した教育をするための資料が欲しいとかねがね考へていた。たまたま町当局、町商工会より依頼を受け、郷土誌の編集に着手した次第である。

爾来一年有余、本校片川教頭、登里教諭を根幹として全職員協力のもとに、校務の余暇、休日を返上し昼夜兼行、調査研究に東奔西走、努力精進を続けた結果今回漸く発刊の運びに至つたのである。直接編集の事に当つた本校職員の努力と、町当局、町商工会の財政的援助、貴重な文献を惜しみもなく提供して下さつた関係各位の御好意、これらが集大成されて本書が世に出るに至つたのである。

ある。

この冊子が郷土教育の貴重な資料として、あるいは家庭団らんの好読物として、更には筆の町熊野の郷土紹介の資料として、広く各界に利用し親しまれるであろうことを念願して序とする。

昭和三十四年春

安芸郡熊野中学校長

岩崎喜一